

地域おこし協力隊通信

第32回



リポーター…
小林正英 隊員



4期生の高橋隊員



皆さんこんにちは！地域おこし協力隊の小林です。先輩の協力隊である森山隊員が退任されて約4ヶ月。ついに、潮来市地域おこし協力隊4期生として高橋将行さんが、着任しました！今回は新しい協力隊についてお話しします。

地域おこし協力隊には、ミッション型とフリーミッション型という2つの形があります。簡単に言うと、着任前から活動の方向性が決まっているのがミッション型、着任してから、活動の方向性を決めるのがフリーミッション型という感じです。私小林は、『就労支援サイトの運営』というミッションで着任しました。高橋さんも同様、ミッション型で着任し、その内容は『広告やデザイン』。未経験なので、まだまだ未熟かもしれませんが、今後研修などで力を磨き、さまざまな場面で、その力を活かし地域に貢献していただきたいと思います。

一方で、このミッションに縛られずに活動して欲しいとも

思っています。私自身、ミッションとは別に、活動の軸というものを設定して、道の駅でのパンケーキの販売やレストランプロジェクト(仮)など就労支援サイトの運営とは関係ないことでも、協力隊の活動にしています。私の活動の軸は『ビジネス』。ビジネスに関することなら何でもできる感じがすもちらん限界はありますが笑。この軸を設定しただけで活動の分野が広がりました。なので、高橋さんにもミッションのほか活動の軸を見つけてもらい、自由に動いていただきたいと思っています。

いろいろと書きましたが、地域おこし協力隊として何をするにしようか、まずは地域になじむことが大切。これから、高橋さんは潮来市内を周ると思っています。この記事を見てくれる方のところにもお邪魔するかもしれません。その時にはフランクに話していただくと、温かい目で見守っていただければ幸いです。よろしくお願います。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第69回

水郷の魚たち―「とらごろ」の謎

2022年の寅(とら)年がスタートしました。魚類学を専門としていると、干支に関係した魚はいますか？とよく聞かれますので、今回は「とら」が付く魚の話です。「とら」が付く魚といえば、まずは高級魚のトラフグ、次いでトラウツボ、トラギス、トラザメなど、水族館でもおなじみの海水魚を思い浮かべます。2020年にはトラハゼが国内ではじめて西表島から記録されたというニュースもありました。トラフグ以外はどれも体に横じまが入っています。

かつて霞ヶ浦には漁師さんに「とらごろ」と呼ばれる小型ハゼ類がいました。しかし、近年この呼称は使われず、おらず、正体が不明です。大正元年に公表された「霞ヶ浦北浦漁業基本調査報告書」には「とらごろ」についての

詳細な記載があり、とらごろの細密画とともに、その形態について「黄色ノ横紋十数条アリテ・尾鰭及び背鰭二八黒色波ノ美麗ナル斑紋数条アリ…」と記されています。十数個の横じまがある魚です。とらごろの正式

詳細な記載があり、とらごろの細密画とともに、その形態について「黄色ノ横紋十数条アリテ・尾鰭及び背鰭二八黒色波ノ美麗ナル斑紋数条アリ…」と記されています。十数個の横じまがある魚です。とらごろの正式



アシシロハゼ 体長約4cm 北浦産 (加納撮影)



アシシロハゼ 体長約4cm (小熊進之介撮影)

な和名として「よしのぼり」が併記されているのですが、ヨシノボリという種の体形や模様、ウロコの数、ヒレの形は、とらごろの細密画と一致しません。報告書の細密画や形態記載が一番近いのがアシシロハゼ(写真)で、生態の解説とも合致します。本種は体長5cmほどの小型ハゼ類で、霞ヶ浦では数は少ないものの、一年中みられます。白身で美味しい魚で、佃煮やこた煮干しに混じって売られています。ところで、とらごろが確実にアシシロハゼなのかというと、ヨシノボリや他の種類の可能性もまだあり、当時の漁師さんへの聞き取りも叶わず、今となっては謎の魚です。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション
加納 光樹